



De Bonte Hen

製油工場、De Bonte Hen は1693年に建てられました。1846年、Crok&Laanと呼ばれる油メーカーが製油工場を購入しました。この会社は、当初はユニリーバの一員として、そしてIOIの子会社として現在も取引されています。

製油工場は1927年まで稼働を続けました。長年の不使用の後、ひどく荒れ果てた製油工場の主部や風車の羽根は、1935年に壊されました。しかし、製油工場の倉庫と土台自体はそのまま残され、あらゆる種類の物資を保管するために使用されました。



1973年に、Zaan Windmill協会は、製油工場の遺構を購入しました。De Bonte Hen は6年間にわたり数段階に分けて完全に修復されました。2つの17世紀の油貯蔵庫はDe Bonte Henのユニークな特徴です。

De Bonte Henは今日でも植物油を生産しています。財団 Stichting De Windmolen Compagnieは、原材料を購入し完成品を販売しています。

製油工場には本当に暖かい屋根裏部屋があり、30人までのグループを収容できます。詳細はザーン風車協会から入手できます。

ご注意ください! 自分の責任で製油工場を訪問してください。お子様は近くにおいて、彼らの行動に気をつけてください。製油工場では喫煙は許可されていません。ご協力ありがとうございます!



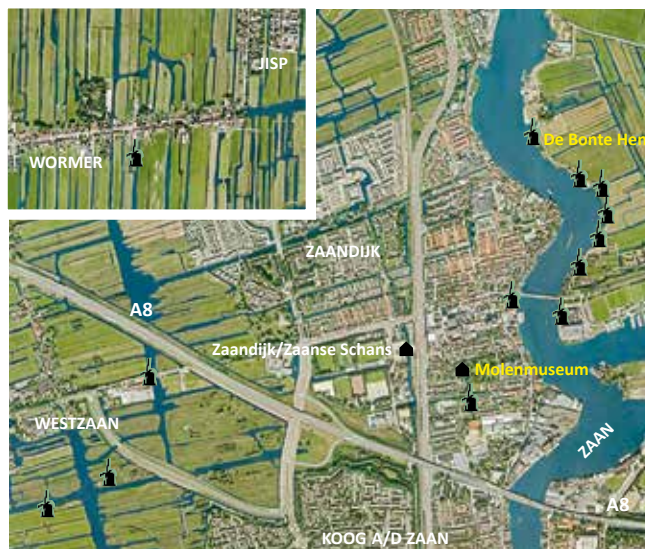
DE ZAANSCH E MOLEN

De Bonte Henはザーン風車協会 (Vereniging De Zaansche Molen) が所有しています。

この協会は1925年に設立され、現在13の製油工場とミル・ミュージアムを所有しています。その目的は、残りの工業用製油工場を良好な状態に保ち、運営し、一般に開放することです。ミル・ミュージアムは1928年にオープンし、製油工場で使用されていた絵画、モデル・ミル、およびオブジェクトのユニークなコレクションを展示しています: 風車の本格的な縮図です。

ボランティアはザーン風車協会の原動力です。彼らは、製油工場を稼働させ、メンテナンス作業を行い、製粉業者を支援します。皆様の訪問による収入は、ザーン風車協会に使われます。

ザーン風車協会、製油工場、ミル・ミュージアムに関する情報は、www.zaanschemolen.nlまたはwww.facebook.com/Zaanschemolensから入手するか、製油工場の入り口でご請求ください。



Vereniging de Zaansche Molen

Museumlaan 18, 1541 LP Koog aan de Zaan
電話 +31 (0)75 6215148, email: info@zaanschemolen.nl

Molenmuseum

Museumlaan 18, 1541LP Koog aan de Zaan, 電話 +31 (0)75 6288968

製油工場De Bonte Hen

Kalverringdijk 39, 1509 BT Zaandam
電話 +31 (0)75 6217452, email: bontehen@outlook.com

DE BONTE HEN

Kalverringdijk,
ザーンセスカンス,
ザーンダム



DE ZAANSCH E MOLEN

1693 AD
の製油工場



1894年 De Bonte Hen



ザーンストリーク地域

ザーン川は、アムステルダム北部の古い工業地帯、ザーンストリークを流れる大動脈です。この地域は17世紀と18世紀に栄えました。多くの水路は交通手段を容易にし、平らな地形には常に風があったことを意味していました。このことが風車を作るのに論理的な場所でした。

一時は、1100以上の風車の羽根が、ザーンストリークで雄大に回転していました。その結果、西欧で最も古い工業地帯が生まれました。

製油工場は原材料を半製品または完成品に加工しました。大麦と米の外皮を取る製粉工場、製油工場、染料工場、製紙工場、嗅ぎタバコ工場、マスタード工場、ココア工場と麻の布巻き工場、そして、それらはすべて工業規格で材料を加工しました。

原材料のほとんどがアムステルダムを経由してこの地域に入り、加工された材料の大半はアムステルダムの市場で再び取引されました。

蒸気機関がおよそ1850年頃に現地にやって来ましたこの発明は、風力の必要なしで、無制限の生産を可能にしたのです。

工業用製油工場は時代遅れになり、急速に消え始めました。

1880年には、まだ280台の風車が稼働していました。この数は1920年までには40に減っていました。今日、わずか17の工場がザーンストリークに残っているだけです。

製油工場

1600年以降、多くの工場が製油工場として建設されました。

それらはアマニ油、菜種油、麻油を生産するために種子を圧縮するのに使用されました。

アマニ油は塗料やニスに使用され、菜種油はランプ油や調理油として使用され、麻油は(緑色)石鹼の基本成分です。以前は、工場は毎年何百万リットル(主にアマニ油)の油を生産していました。

1650年頃には、油の需要が増加したのです。工場の規模は大きくなり、1台ではなく2台の圧搾機を入れました

この地域の1100の工業用工場のうち、200は製油工場でした。

蒸気機関がやって来た時、製油工場の重要性は低下し、塗料業界の新しい技法は1900年以降のアマニ油の需要を減少させました。

油の圧搾工程

植物の種子は回転する重い石臼で絶妙な工程で粉砕されます。これにより小麦粉が製造され、その後加熱された攪拌機の上で熱せられます。

油は巨大な力で圧搾されてここで押し出されます。

この工程で、油と固形状の圧縮された種子の2つの製品を生成します。後者は牛の飼料として販売されました。油はろ過され、油貯蔵庫に貯蔵されました。牛の飼料は工場の倉庫に貯蔵されました。

種子一束の30%~35%が油に変わります。牛の飼料は残りの部分を占めています。

種子からできた小麦粉は、油を生成するためにプレスで圧縮されます。



製粉業者

製油工場で働くことは、決してピクニックではありませんでした。製油工場は日夜稼働し、日曜日のみ閉鎖されました。工場には作業員からなる4つのチームが常に稼働していました; 彼らは1日16時間働き、自分の時間で歩いて家に帰りました。製油工場の作業員は出来高払いの賃金だったため、収入は低くなりました: 何を生産したかに基づいて支払われました。だから風力のない期間も貧困の時代でした。

工場内の騒音は、非常に若い時期から製油工場の作業員の聴覚に恒久的な損傷をもたらしました。この職業病は「ハイドゥーフ(聴覚障害)」として知られていました。

De Bonte Henは、工業時代と技術の記念碑であるだけでなく、何世紀にも渡って数多くの人々が働いた記念碑です。

